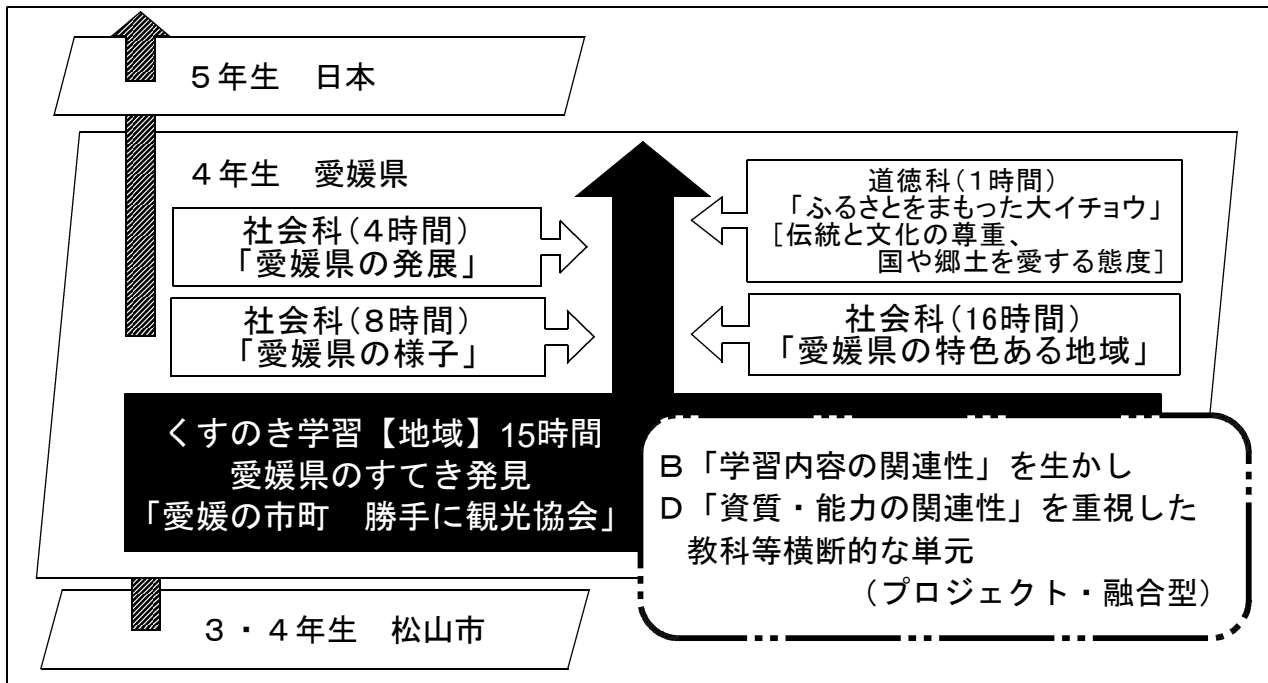


第4学年星組 くすのき学習【地域】（＋社会科・道徳科）
「愛媛県のすてき発見 ー愛媛県の市町 勝手に観光協会ー」 指導者 金光 賢史

1 単元全体構想図



2 単元構想について

本単元は、B「学習内容の関連性」を生かし、D「資質・能力の関連性」を意識した、プロジェクト・融合型の教科等横断的な単元である。

本学級の子どもは、第2学期に、くすのき学習【地域】において、自分と接点のある松山の偉人について調べている。社会科を中心にくすのき学習と関連させて、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現という探究的な学習の基本的な流れを習得した。特に「振り返り」の活動として行った「4星松山偉人フェスティバル」に大きな満足感を得ており、探究的な学習へのやる気や自信が以前より高まっている。加えて、自分が住んでいる松山への愛着も、より深まったように思う。

そのような子どもに対し、地域への愛着を更に深めるとともに、探究的に学習することのよさをもっと感じさせ、探究的な学習を行うためのスキルを確かに習得させたいと思い、本単元を構想した。

探究課題は、自分と接点がある愛媛の市町について調べることにし、前単元同様、主に社会科との関連を図る。くすのき学習【地域】にとってのメリットは、社会科と関連させることで、意欲的に追究できる課題設定がなされることや、学習の空間を松山市から広げられることが挙げられる。一方社会科にとってのメリットは、松山市から愛媛県、国へといった学習内容の系統性が生かされることとともに、「問題解決ステージⅡ」（社会科の授業メソッド参照）が充実し、社会科で育みたい資質・能力である「社会に参画する力」が更に高まることが期待できる点にある。

なお、単元全体の「出会い」「追究」「振り返り」は、次ページの単元構想の通りであるが、くすのき学習【地域】の視点から見た場合、「出会い」は愛媛県の様子や特色のある市町を調べることであり、そこで高まった愛媛県に関する興味や関心、課題意識が、自分が調べたい市町について調べるという「追究」の活動へとつながっていく。そして、「振り返り」において、「(仮)愛媛の市町フェスティバル」を開き、通常の発表形式だけでなく、体験コーナーや名産品の紹介、ご当地キャラやご当地ソングの発表など、自分らしさを生かした活動を取り入れ、多様な表現方法を経験させながら、愛媛県の自然や文化等への誇りや愛着を持たせるところにつなげていきたい。

3 単元のねらい

- 自分とつながりのある愛媛県の市町の特色について、探究的に調べ、発信することを通して、自分たちが住む愛媛県に愛着を持つ。 (くすのき学習【地域】)
- 愛媛県の地理的環境や県内の特色ある地域の人々の生活について、地図や各種資料を活用して意欲的に調べ、適切に表現することを通して理解できるようにする。併せて、地域に誇りと愛情を持つとともに、地域の社会的事象の特色や相互の関連について考える。 (社会科)
- 郷土の文化と伝統を大切に、郷土を愛する心情を育てる。 (道徳科)

4 単元の展開 (全46時間：くすのき学習【地域】15時間、社会科30時間、道徳科1時間)

場面	子どもの課題意識と主な学習活動	評価の規準(くすのき学習【地域】)	時間
出 合 い	愛媛県について調べよう。 ○ 愛媛県について調べていくという課題を意識し、追究する計画を立てる。	● 愛媛県について調べていく意欲と見通しを持っている。	1
追 究	愛媛県の様子を調べよう。 ○ 47都道府県の名称と位置、愛媛県の地形、産業、交通、都市などを地図や資料から調べ、白地図に表す。 愛媛県の市町を調べよう(パートⅠ)。 ○ 愛南町(自然環境)と砥部町(地場産業)について複線型で調べる。 ○ まとめたことを「愛南町VS砥部町 勝手に応援対決」で発表する。		25
究	愛媛県の市町を調べよう(パートⅡ)。 ○ 「(仮)愛媛の市町フェスティバル」に向けて、学習の計画を立て、情報を収集・整理し、まとめたものを発表する。	● 自分が選んだ市町のすてきなところについて、自分なりの方法で進んで調べ、その市町の特色を工夫して表現している。	15 本時 その1
振 り 返 り	愛媛県の発展のために行動しよう。 ○ 愛媛県(松山市)と世界とのつながりを知り、これからの愛媛県(松山市)について考え、自分なりに行動していく。	● ふるさと愛媛への愛着を持つとともに、新たな課題を見だし、行動を開始している。	5

5 単元における指導と評価の工夫(くすのき学習【地域】として)

場面	三つの場面ごとの指導と評価の工夫
出 合 い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分との接点を具体的に意識させて、それを基に調べていく市町を決めさせる。 ・ 愛南町と砥部町に分かれて調べさせ、発表し合うことのよさや楽しさを感じさせる。 ・ 学習のゴール「(仮)愛媛の市町フェスティバル」を提示し、調べたい市町のグループごとに学習計画や学習課題を立てさせ、役割分担をさせながら、学習の見通しを持たせる。
追 究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収集した情報をグループや学級で共有させ、専用ノートに蓄積・整理させていく。 ・ 毎時間の始めと終わりにグループで集まるようにさせ、その日の活動の打合せをしたり、振り返ったりする時間を確保して、協働的な学習であることを強く意識させていく。 ・ ICT機器を活用して情報を集めたり、発表に生かしたりしていく。
振 り 返 り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「(仮)愛媛の市町フェスティバル」を開催し、調べてまとめたことを、多様な表現方法で発表させる。 ・ 探究的な学び方ができたか、学んで身に付いたことは何か、という視点で振り返りをさせ、学びの意味や価値を自覚させる。

6 本時の授業（27/46）

(1) 日時 平成31年2月1日（金）11:30～12:15

(2) 場所 4年星組教室

(3) ねらい（くすのき学習【地域】）

- 前時までの活動における学んだことや成果や課題などを、新たな追究活動に生かそうとする。
- 単元のゴールをイメージし、学習課題の設定や学習計画の立案を通して、今後の活動への見通しを持つ。

(4) 準備物 前時の板書、愛媛県の人口の推移及び観光客数のグラフ

(5) 展開

学習活動	予想される子どもの意識の流れ	指導（○）と評価（●）
1 学習課題を確認する。	愛媛の市町について調べる計画を立てよう。	○ 前時の板書を残しておき、学習のつながりを意識させる。
2 調べる目的を話し合う。	愛媛の市町を調べる目的をみんなで話し合ってみよう。 ・愛媛県の市や町のよさを伝えたい。 ・たくさんの人に愛媛県のよさを知ってほしい。 ・愛媛県を応援してくれる人を増やしたい。	○ 愛媛県の人口が減っており、観光客が増えていることが分かるグラフを提示し、活動の目的が明確に意識できるようにさせる。
3 どんな発表会にしたいかを話し合う。	ゴールをどんな発表会にするかを考えよう。 ・「松山偉人フェスティバル」みたいになりたい。 ・名産品の試食やお土産のコーナーも作りたい。 ・できるだけたくさんの人を招待したい。	○ これまでの学習経験を想起させ、やる気や意欲が高まるような言葉かけをする。
4 グループで学習計画を立てる。	いつ何をするのかをグループで考えよう。 ・15時間も使えるからワクワクする。 ・やりたいことがたくさんあって困るよ。 ・今度はたくさん練習しないとイケないな。	● 前時までの活動の成果や課題を、次の活動に生かそうとしているか。 [発表・ノート]
5 「ワクワクやる気度」を書く。	今日の活動を振り返ろう。 ・100% 発表会がとても楽しみだから。 ・70% 何をするのか全然決まっていないから。	○ グループに分かれて何をするかを話し合わせ、活動への意欲を高める。
6 次時の予定を確認する。	次の時間の活動を確認しよう。 ・あと1時間かけて計画をしっかり立てよう。 ・もう作業に入れるから資料を準備してくるよ。 ・誰が何をするのかをじっくり相談しようね。	● ゴールをイメージして、今後の活動への見通しが持てたか。 [学習計画・ワクワクやる気度]

7 評価の具体的な方法

(1) 「出会い」の場面

	欲求が満たされているかどうか	資質・能力が身に付いているかどうか
視点	愛媛の市町のすてきなところを調べていく学習に対する興味・関心	自分なりの学習課題を設定する力や学習計画を立案する力
方法	これからの学習に対する「わくわくやる気度」を書かせる（数値と記述）。	全体の学習課題を受けて、個人やグループの目標を立てさせ、学習計画を立案させる。
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「わくわくやる気度」の数値が高く、課題に対する興味・関心を感じている。 〔・楽しそう ・やってみたい ・面白そう ・わくわくする 頑張りたい 等〕 ○ 数値は低い、課題を前向きに受け止めて、自分なりに頑張ろうとしている。 〔・頑張りたい ・一生懸命やりたい ・挑戦したい ・できるようになりたい 等〕 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 興味・関心があることや得意なこと、苦手なことや挑戦したいことなどを目標にしている。 〔・調べることが好きだからたくさん調べたい ・話すのが苦手だから発表を頑張りたい 等〕 ○ 個人、またはグループで適切な学習計画がうまく立案されている。

(2) 「追究」の場面

	欲求が満たされているかどうか	資質・能力が身に付いているかどうか
視点	グループの友達との協働的な追究活動	収集・蓄積・共有した情報を整理したりまとめたりする力
方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の始めにグループ全員で今日の予定や目標を確認させ、授業の終わりにその予定や目標に対する振り返りを確実にさせる。 ○ 「今日の満足度」を数値と記述で表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 収集・蓄積・共有した情報を、専用ノートに見出しを付けて整理させていく。 ○ ICT機器を情報収集やまとめに活用させる。
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループの友達と進んで話し合い、その日の予定を決めたり振り返りを行ったりしている。 〔・今日はみんなでこれを頑張ろう ・今日はみんなでいい活動ができたね 等〕 ○ 「今日の満足度」の数値が高く、友達と活動することを楽しんでいる。 〔・楽しくできた ・協力してできた ・助けてもらってうれしかった 等〕 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集めた情報や共有した情報が、専用ノートに分かりやすく整理されている。 ○ ICT機器を積極的に活用し、情報を収集したり、分かったことをまとめたりしている。

(3) 「振り返り」の場面

	身に付けた資質・能力を生かしたり発揮したりしているかどうか
視点	新たな課題であるフェスティバルの実施に向けての積極的な行動
方法	フェスティバルに向けての意欲的な様態を捉える。
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分から進んで活動に取り組んでいる。 〔・私がやりたい ・私がやる ・私に任せて ・もっとしたい ・あれもしたい ・頑張った ・一生懸命できた 等〕